

鳴門教育大学と附属学校園との連携による研究

原 卓 志

1. はじめに一連携のための組織

本学附属学校園は、昭和 61 年に徳島大学から移管された。平成 16 年度より、四つの附属学校園を統括する附属学校部を設置し、附属学校部長には大学教員が就くこととなった。平成 20 年度、附属学校長を大学教員の兼務から、徳島県教育委員会との交流人事による「専任校長」制へと変更した。このことによって、附属学校と教育委員会、各校長会との関係が密となり、より円滑な交流の基盤となった(なお、附属幼稚園長は大学独自採用)。

平成 28 年度、副学長(附属学校担当)を設置し、附属学校部長を兼務した。また、附属学校園長を「教育実践教授」に任命し、大学生・大学院生に対する指導体制を整えた。

2. 地域のモデル校としての教育実践研究と開発

本学附属学校園は、実験的・先導的な教育課題に取り組み、地域の教育モデル校としての役割を果たし、その成果を地域に還元することを通して、地域教育の一翼を担うという使命を有している。この使命を全うするために、附属学校園は鳴門教育大学とともに、徳島県教育委員会をはじめとする各地教育機関との連携・協力の下、①学力の向上(教員研修との連携、徳島県教員育成指標)、②ICT 活用による授業改善(プログラミング教育)、③キャリア教育(消費者教育)の推進、④小中一貫型教育プランの開発、といった諸課題に対する共同研究を推進してきた(第 3 期中期目標・計画)。これらの成果の一端は、徳島県教育委員会が主催する「あわ(OUR)教育発表会(徳島県立総合教育センターから YouTube「徳島県チャンネル」での動画配信)」などを通して県下への普及を図っている。また、プログラミング教育の研究成果を『今こそ知りたい！ 学び続ける先生のための基礎と実践から学べる小・中学校プログラミング教育』(鳴門教育大学プログラミング教育研究会編著、株式会社ジアース教育新社、令和3年2月)として刊行した。さらに、月刊誌『実践みんなの特別支援教育』(学研、令和5年4月号～6月号)に「ライフキャリア発達から考える「わたし」を認め、育む」と題し、共同研究の成果を連載記事として発表した。

これらとともに、教育理論と実践に関する先導的・先進的研究として、研究主題の設定から、各教科の単元構想・教材分析・授業計画などについて附属学校園教員と大学教員が連携・共同して構築した授業の公開と授業研究会を定期的に開催している(幼稚園:幼児教育研究会、小学校:小学校教育研究会と授業実践研修会を隔年で開催、中学校:附属中学校研究発表会、特別支援学校:公開授業研究会)。ここでは、徳島県教育委員会など、広く学外からの指導・助言者を招くことによって、様々な観点から教育実践を考える貴重な場を提供している。

3. 第4期中期目標・計画における連携

令和4年度よりの第4期中期目標・計画において、本学附属学校園は、大学との連携のもとに、先導的教育(STEAMIC)モデルを構築し、実践プログラムを開発して、広くその成果を発信することに取り組むこととなった。学長戦略経費からの予算的な支援を受けつつ、各附属学校園の研究部所属教員と STEAM 教育を専門と

する大学教員が連携・協力し、各附属学校園での試行的な授業実践研究が開始された。また、STEAM 教育先進県への研修視察や講師招聘等による検討を通して、本学独自の STEAMIC 教育の理念を構築し、理念に沿った研究主題の策定にあたってきた。

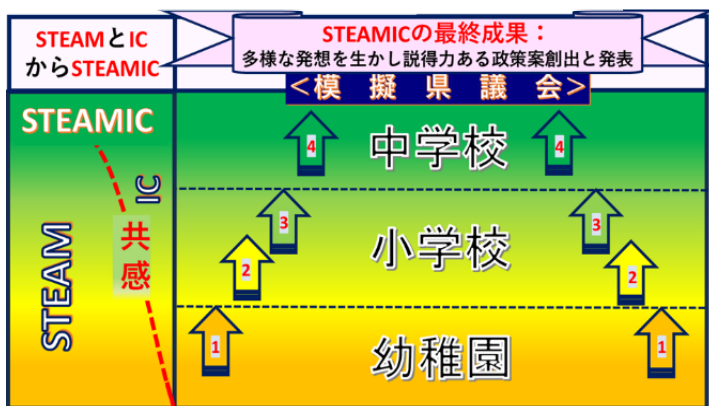
STEAMIC 教育の理念（一部分を抄出）

《附属学校で取り組む STEAMIC 教育》

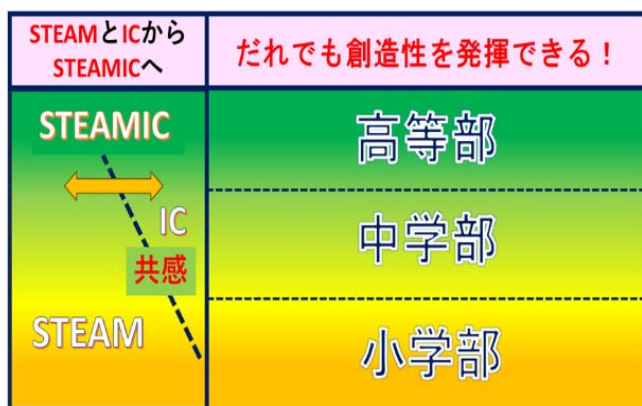
鳴門教育大学の附属学校では、STEAMIC 教育に取り組んでいます。この STEAMIC 教育は、STEAM と IC の二つから構成されています。

まず、STEAM 教育の目的は、「科学・技術分野の経済的成長や革新・創造に特化した人材育成」という STEM の要素に、A の要素（芸術・リベラルアーツ）を加え生かして、様々な問題発見・解決ができる創造的な人を育てることです。また、「STEAM を構成する各分野が複雑に関係する現代社会を生きる市民の育成」の側面もあります（令和 3 年 1 月中央教育審議会答申）。STEAM 教育を科学技術人材の育成にとどまらず、広く「市民育成」の側面でも捉え、学習者それぞれの個性を生かし、感性を育むとともに、複雑化した現代社会で互いの多様性を包括しながら現代社会でより良く生きる市民の育成を目指そうとするものが、鳴門教育大学の附属学校で取り組む STEAM 教育です。また、IC とは Inclusive Citizenship（包括的な市民権）であり、多様な人々の市民権を認められる人間、多様性を理解し共感できる社会の構成員の養成を目指しています。

幼稚園・小学校・中学校



特別支援学校



- STEAMIC：STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics)と IC(Inclusive Citizenship)の要素からなる鳴門教育大学附属学校園の教育目標。
- STEAMとICの割合：幼稚園では主にSTEAMの内容を学ぶが、小学校、中学校へと進むにつれて徐々にICの要素が加わる。中学校の最終学年（3年生）ではこれらが統合されたSTEAMICの最終成果として、政策案創出と模擬県議会での発表を行う。
- 共感：STEAMのAと、ICの両方に共有される重要な要素であると解釈できる。

- 1：幼稚園での学び（STEAMとICの芽吹き）
- 2：小学校1・2年生での学び（ICの意識）
- 3：小学校3～6年生での学び（ICの育成から共感へ）
- 4：中学校での学び（STEAMとICが統合してSTEAMICへ）

4. むすび

第4期中期目標・計画も3年目となり、いよいよ本学の掲げる先導的教育(STEAMIC)モデルの構築と、実践プログラムの開発・公開を本格化させる時期となってきた。令和6年度からの各校園の授業研究会で提案される授業実践・授業研究が、学習者・指導者の双方にとって魅力的で意義深いものであるとともに、楽しく取り組めるものとなるように、附属学校園教員と大学教員とのより緊密な連携に努めていきたい。

（鳴門教育大学副学長(附属学校担当)・附属学校部長）